

(1) 実施機関名：

京都大学防災研究所

(2) 研究課題(または観測項目)名：

歴史記録の電子化

(3) 最も関連の深い建議の項目：

4. 研究を推進するための体制の整備

(2) 研究基盤の開発・整備

イ. 地震・火山現象のデータベースとデータ流通

(4) その他関連する建議の項目：

1. 地震・火山現象の解明のための研究

(1) 地震・火山現象に関する史料，考古データ，地質データ等の収集と整理

ア. 史料の収集とデータベース化

2. 地震・火山噴火の予測のための研究

(2) モニタリングによる地震活動予測

ア. プレート境界滑りの時空間発展

(5) 優先度の高い地震・火山噴火との関連：

南海トラフの巨大地震

(6) 本課題の 5 か年の到達目標：

東南海・南海道震前の地震活動や応力状態を知るために、過去の地震データは最も重要な情報の一つである。劣化しつつある歴史地震記録を電子化し、データベースを構築することが本研究の主な目的である。

(7) 本課題の 5 か年計画の概要：

京都大学では、阿武山・別府・阿蘇・上賀茂等で記録された一世紀以上におよぶ地震の観測データおよび約半世紀にわたる地殻変動連続観測データを保有している。これらのうち、阿武山観測所のウィヘルト地震計および大震計の大部分と上賀茂観測所の大森式地震計の一部は電子化されているが、それ以外のデータは依然として紙媒体のままであるため、管理および活用に困難を極めているし、データは年々劣化している。これらの貴重な観測記録を電子化し、データベース化をはかり、全世界の地震・火山研究者の利用に供する。加えて、阿武山観測所においては、これらのデータを記録した歴史的な地震計を動態保存し、電子化した記録とともに、サイエンスミュージアムとしてのアウトリーチ活動に活用する。

平成 26～27 年度においては、阿蘇のウィヘルト地震計のデータを電子化する。平成 28 30 年度においては、上賀茂観測所の大森式地震計の未処理分および、別府のウィヘルト地震計のデータを電子化する。

(8) 平成 26 年度の成果の概要 :

阿蘇の火山研究センターで保管されているウィーヘルト地震計の煤書き記録は、記録されてから 80 年以上を経過しており、劣化が激しいため、煤書き記録をスキャンして電子媒体に保存することが必要不可欠である。

阿蘇火山では 2014 年 11 月 25 日から本格的な噴火が始まった。この噴火に先立ち、1930 年代に観測されていた微動と同じような周期・振幅をもつ微動 (Sassa, 1936 の分類による第 1 種微動) が、2014 年 10 月 20 日ころからウィーヘルト地震計・上下動で捉えられている。1930 年代は最近 100 年間で、阿蘇火山が最も活発であった時期であり、今後の阿蘇火山の活動推移を予測する上で、当時の記録を精査することが重要である。

そこで今年度は、観測所において整理・選別した 1931 年～1934 年に記録された煤書き記録 500 枚をスキャンして、ハードディスクに格納することとした。

阿武山観測所では耐震改修工事の開始前の 7 月まで、歴史的な地震計を動態保存し、サイエンスミュージアムとしてのアウトリーチ活動に活用した。

(9) 平成 26 年度の成果に関連の深いもので、平成 26 年度に公表された主な成果物 (論文・報告書等) :
矢守克也, 2014, 阿武山観測所サイエンスミュージアム構想, DPRI Newsletter, 74, 10-11.

(10) 平成 27 年度実施計画の概要 :

平成 27 年度においては、引き続き、阿蘇のウィーヘルト地震計のデータを電子化するとともに、阿武山観測所の耐震改修工事が終了するので、7 月 4 日のリニューアルオープン以降、サイエンスミュージアムとしてのアウトリーチ活動をより一層強化する。

(11) 実施機関の参加者氏名または部署等名 :

京都大学防災研究所・理学研究科
他機関との共同研究の有無 : 有
地震予知総合研究振興会、松浦律子

(12) 公開時にホームページに掲載する問い合わせ先

部署等名 : 京都大学防災研究所
電話 : 0774-38-3348
e-mail :
URL :

(13) この研究課題 (または観測項目) の連絡担当者

氏名 : 飯尾能久
所属 : 京都大学防災研究所地震予知研究センター